

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和4事業年度）

評価を変更した項目（6項目）

資料7

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
25	<p>・入試、教務・学生、キャリア支援に関わる各部署間の情報共有と連携の強化により、学生の希望の実現に向け、入学から卒業まで一貫した教育を行う。【No.25】</p>	<p>・副学長を中心に、入試室、教務・学生室、キャリア支援室及び関連委員会の間で情報共有する仕組みを作る。【No.25】</p>	<p>・教育研究審議会にて、入試室、教務・学生室、キャリア支援室及び関連委員会の間で適切に情報共有し、教育の質保証を全学的に推進する組織として教学IR部会の設置が承認された。【No.25】</p>	S	A	<p>全学的かつ組織的なIR活動を促進するため、教学IR部会の設置を行い、計画を順調に実施したものの、具体的な活動は翌年度に開始されることから、令和4年度に計画を上回る成果を上げたとはまでは認められないため、左記の評価とする。</p> <p><R4主な取組> ○学長のリーダーシップの下、全学的かつ組織的にIR活動を行うことを決定し、さらに教職協働を進めるためにIR部会の下にFD作業部会とSD作業部会を設置 ○令和4年度に受審した認証評価の結果を踏まえ、教育の質保証の取組を全学的に推進し、かつ、現在のカリキュラム改定作業にも反映させるため、先ず、教学IRに関する取組を中心に始めることとした。</p> <p><今後の取組> ○IRの対象を入試、広報、進路指導を含めた大学全体の運営に拡大する。</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和4事業年度）

評価を変更した項目（6項目）

資料7

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																				
43	<p>・社会人聴講生制度や公開講座等を活用するとともに、社会人がより参加しやすい教育機会の提供方策を検討し、リカレント教育を促進する。 【No.43】</p> <p>〈数値目標〉 社会人学生数（正規の学生及び科目等履修生）： 過去3年平均以上／毎年</p>	<p>・後期の社会人聴講生の受入れ及び運用方法について検討する。 【No.43】</p>	<p>・後期社会人聴講生・科目等履修生の受入れ方針を決め、受入れを再開した。【No.43】</p> <p>〈数値目標〉 社会人学生数（正規の学生及び科目等履修生）：正規の学生1名、科目等履修生1名（過去3年平均：3人）</p>	A	B	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>学部の一般選抜の志願倍率、社会人学生数、留学生の受入人数などの数値目標が未達成となったため、左記の評価とする。将来に渡って多様な学生を安定的に確保できるように、訴求力の高い広報を展開し、受入方策を充実されたい。</p> </div> <p><社会人学生数（当該年度の入学者数）の状況></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>過去3年平均</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会人学生数(人)</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>うち科目等履修生(人)</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0.3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p><（参考）社会人聴講生の受入状況></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>過去3年平均</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開講科目数(科目)</td> <td>75</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>25</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>社会人聴講生数(人)</td> <td>161</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>53.6</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table> <p><R4主な取組> ○社会人聴講生の受入に当たり、学習支援システム等の利用マニュアルを作成し、利用を支援した。</p>	区分	R1	R2	R3	過去3年平均	R4	社会人学生数(人)	2	3	4	3	2	うち科目等履修生(人)	0	1	0	0.3	1	区分	R1	R2	R3	過去3年平均	R4	開講科目数(科目)	75	0	0	25	30	社会人聴講生数(人)	161	0	0	53.6	44
区分	R1	R2	R3	過去3年平均	R4																																					
社会人学生数(人)	2	3	4	3	2																																					
うち科目等履修生(人)	0	1	0	0.3	1																																					
区分	R1	R2	R3	過去3年平均	R4																																					
開講科目数(科目)	75	0	0	25	30																																					
社会人聴講生数(人)	161	0	0	53.6	44																																					

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和4事業年度）

評価を変更した項目（6項目）

資料7

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																																																	
55	<p>・「実践演習」など、地域課題解決に取り組む教育を通じて学生の地域志向を高める。 【No.55】</p> <p>〈数値目標〉 地域連携演習等取組者数：第2期平均以上／毎年</p>	<p>・コロナ禍により縮小された「地域連携演習」のプログラムの増強と履修者の回復を図る。 ・1年次の「地域連携演習」が2年次以降の「自主課題演習」の履修に繋がるよう学生を指導する。【No.55】</p>	<p>・コロナ禍により縮小された「地域連携演習」のプログラムの増強と履修者の回復を図った。（プログラム数 R3：23件→R4：28件） ・「地域連携演習」の事前指導授業で「自主課題演習」を推奨する指導を行った。また個別に自主課題を行っているグループに「自主課題演習」の履修方法を伝え、指導を行った。【No.55】</p> <p>〈数値目標〉 地域連携演習等取組者数：280人 第2期平均値：195人</p>	A	S	<p>コロナ禍により縮小された地域連携演習のプログラム数を増やし、過去最高の取組者数となったため、左記の評価とする。地域と連携した実践的な教育の実施は、大学の特色ある強みであり、更なる魅力向上のため、今後のプログラムの充実に期待する。</p> <p><地域連携演習等の状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>第2期平均</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">プログラム数(件)</td> <td>地域連携演習※1</td> <td>53</td> <td>53</td> <td>48</td> <td>49</td> <td>11</td> <td>23</td> <td>39.5</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>自主課題演習※2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1.5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>49</td> <td>50</td> <td>12</td> <td>23</td> <td>41.0</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">取組者数(人)</td> <td>地域連携演習※1</td> <td>187</td> <td>209</td> <td>250</td> <td>169</td> <td>48</td> <td>262</td> <td>187.5</td> <td>277</td> </tr> <tr> <td>自主課題演習※2</td> <td>14</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>0</td> <td>8.3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>201</td> <td>218</td> <td>252</td> <td>181</td> <td>61</td> <td>262</td> <td>195.8</td> <td>280</td> </tr> </tbody> </table> <p><R4主な取組> ○教員への呼び掛けにより、「地域連携演習」のプログラム数を23から28に増加させた。 (5プログラム増)</p> <p>※1 地域連携演習（1年次から）： 行政、企業、学校、NPO等の現場での体験を通して、現実社会と関わりながら地域課題への理解を深める。（インターシップ等での体験を含む）</p> <p>※2 自主課題演習（2年次から）： 地域連携促進、多文化共生、文化・芸術振興支援及びユニバーサルデザイン等の広範な領域において、リサーチを踏まえて現場で主体的に実践し提案する。（インターシップ等での主体的な取組を含む）</p>	区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3	第2期平均	R4	プログラム数(件)	地域連携演習※1	53	53	48	49	11	23	39.5	28	自主課題演習※2	3	3	1	1	1	0	1.5	1	計	56	56	49	50	12	23	41.0	29	取組者数(人)	地域連携演習※1	187	209	250	169	48	262	187.5	277	自主課題演習※2	14	9	2	12	13	0	8.3	3	計	201	218	252	181	61	262	195.8	280
区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3	第2期平均	R4																																																															
プログラム数(件)	地域連携演習※1	53	53	48	49	11	23	39.5	28																																																														
	自主課題演習※2	3	3	1	1	1	0	1.5	1																																																														
	計	56	56	49	50	12	23	41.0	29																																																														
取組者数(人)	地域連携演習※1	187	209	250	169	48	262	187.5	277																																																														
	自主課題演習※2	14	9	2	12	13	0	8.3	3																																																														
	計	201	218	252	181	61	262	195.8	280																																																														

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和4事業年度）

評価を変更した項目（6項目）

資料7

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																					
73	<p>・全ての教職員がワーク・ライフ・バランスを実現し、職場及び家庭において充実した活動が出来るよう、育児から介護まで、ライフステージを踏まえた職場環境・体制の整備を進める。</p> <p>・組織を活性化するため、多様な人材の活用及び登用を行う。【No.73】</p> <p>〈数値目標〉 職員（出産した本人を除く）の育児休業等取得率：60%/毎年 育児休業以外の育児に関する諸制度の利用者：第3期累計30人以上 職員の有給休暇取得日数：10日以上/毎年</p>	<p>・育児及び介護関連制度の周知に努め、代替人員の配置や事務分掌の軽減等により、希望者の円滑な制度利用をサポートする。</p> <p>・男女共同参画推進委員会において、県内他大学とのバランス等も踏まえて、必要に応じて施策の改善を進める。</p> <p>・教職員の採用計画及び募集要項を作成し、公募により採用を行う。（再掲【No.71】）</p> <p>・期間契約、非常勤等、業務特性と専門性に応じた雇用を行う。（再掲【No.71】）【No.73】</p>	<p>・育児のための入試業務免除等、制度を周知し利用を促進した。</p> <p>・県内他大学2校の男女共同参画施策推進状況を調査し、施策改善の参考とした。</p> <p>・役員会に教員の採用計画、募集要項案を諮ったうえで公募し、9名の採用を決定した。（再掲【No.71】）</p> <p>・事務組織の適正配置を図るため、期間契約職員等9名を採用した。（再掲【No.71】）【No.73】</p> <p>〈数値目標〉 職員（出産した本人を除く）の育児休業等取得率：100% 育児休業以外の育児に関する諸制度の利用者：12人 職員の有給休暇取得日数：11.75日</p>	S	A	<p>職員の育児休業等や有給休暇の取得において数値目標を達成したものの、時間外勤務時間数が前年度から増加するなど、組織全体での事務の効率化、適正な業務分担及び人員配置に改善の余地があると認められるため、左記の評価とする。</p> <p>〈数値目標の達成状況〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>目標値</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>職員（出産した本人を除く）の育児休業等取得率(%)</td> <td>60%/毎年</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>100(1/1)</td> </tr> <tr> <td>育児休業以外の育児に関する諸制度の利用者(人)</td> <td>第3期累計30人以上</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>職員の有給休暇取得日数(日)</td> <td>10日以上/毎年</td> <td>10.7</td> <td>9.6</td> <td>11.75</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈その他制度の利用状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○育児のための入試業務免除：延べ27人（実人数7人） ○介護関連の制度利用者数：介護休暇：1人 	区分	目標値	R2	R3	R4	職員（出産した本人を除く）の育児休業等取得率(%)	60%/毎年	-	-	100(1/1)	育児休業以外の育児に関する諸制度の利用者(人)	第3期累計30人以上	8	11	12	職員の有給休暇取得日数(日)	10日以上/毎年	10.7	9.6	11.75	
区分	目標値	R2	R3	R4																							
職員（出産した本人を除く）の育児休業等取得率(%)	60%/毎年	-	-	100(1/1)																							
育児休業以外の育児に関する諸制度の利用者(人)	第3期累計30人以上	8	11	12																							
職員の有給休暇取得日数(日)	10日以上/毎年	10.7	9.6	11.75																							
74	<p>・戦略的な大学運営の基礎となる各種情報を整理し提供するIR機能の整備、アウトソーシングやIT化による事務の効率化を進める。【No.74】</p> <p>〈数値目標〉 時間外勤務時間数（総時間数）：対前年減/毎年</p>	<p>・他大学のIR取組の現状等を調査する。</p> <p>・本学の利用可能な情報資産を整理する。</p> <p>・事務の特性に応じたアウトソーシング化やIT化により効率化を進める。</p> <p>・事務の効率化について、アウトソーシングやIT化の事例、システムに関する情報収集を行う。</p> <p>・時間外勤務の多い職員に対する管理職のヒアリング等を通じて、時間外勤務を前年度より減少させる。【No.74】</p>	<p>・県内国公立大学のIR取組の現状を調査した。</p> <p>・SUAC理解・基礎データ集にまとめられた情報資産の有効性を確認した。</p> <p>・年末調整業務の外部委託や、業務用ポータルサイトの整備等により業務を効率化した。</p> <p>・事務効率化に資する他大学の事例等の情報収集を行った。</p> <p>・時間外勤務の多い職員及び当該室長に対して事務局長ヒアリングを行い、室内の業務分担の見直し等を行った。【No.74】</p> <p>〈数値目標〉 時間外勤務時間数（総時間数）：13,067時間（前年度実績：11,806時間）</p>	A	B	<p>時間外勤務時間数が前年度から増加し、数値目標を達成できなかったため、左記の評価とする。更なる事務の効率化や適正な業務分担及び人員配置に取り組みたい。</p> <p>〈時間外勤務時間の推移〉</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>時間数</td> <td>13,650</td> <td>13,039</td> <td>12,677</td> <td>14,200</td> <td>11,806</td> <td>13,067</td> </tr> <tr> <td colspan="7">コロナ禍前平均13,122</td> </tr> </tbody> </table> <p>〈R4主な取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学内業務用サイトのリニューアルの実施 ○図書館・情報センターにおける学生希望図書購入の電子メール決裁化 ○他大学のワークフローシステム導入事例や、電子決裁システムに係る情報収集 	区分	H29	H30	R1	R2	R3	R4	時間数	13,650	13,039	12,677	14,200	11,806	13,067	コロナ禍前平均13,122						
区分	H29	H30	R1	R2	R3	R4																					
時間数	13,650	13,039	12,677	14,200	11,806	13,067																					
コロナ禍前平均13,122																											

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和4事業年度）

評価を変更した項目（6項目）

資料7

No.	中期計画	R4年度計画	計画の実施状況等	自己評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
75	<p>・業務のスクラップ&ビルドを行い、教育・研究組織及び事務局組織の効率的な連携を踏まえた組織改革を進める。【No.75】</p>	<p>・事務事業の見直しや効率化とともに、教育・研究組織と事務局組織の効果的な連携を踏まえた組織改革を進める。【No.75】</p>	<p>・各室で業務改善を図った結果31件の業務が改善された。また、成果等を冊子にまとめた。【No.75】</p> <p>・教育研究審議会にて、入試室、教務・学生室、キャリア支援室及び関連委員会の間で適切に情報共有し、教育の質保障を全学的に推進する組織として教学IR部会の設置が承認された。（再掲【No.25】）【No.75】</p>	S	A	<p>業務改善への積極的な取組により、31件の改善事例を冊子化し、学内において成果の共有を図るなど、計画を順調に実施したものの、中期計画に掲げる「組織改革の推進」について計画を上回る成果を上げたとは認められないため、左記の評価とする。今後も、事務の更なる効率化を図りたい。</p> <p><業務改善の事例></p> <ul style="list-style-type: none"> ○公用車及び会議室予約簿のWebシステム化 ○節電の実施及び節電行動計画の策定 等

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和4事業年度）

評価に当たっての意見がある項目（7項目）

資料7

No.	中期計画	R4年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																																												
3	<p>・外国人留学生、定住外国人、社会人、障害のある学生など、多様な学生の受入れを進め、本学で学ぶ意欲を持つ特長ある人材を安定的に確保する。【No.3】</p> <p>〈数値目標〉 志願倍率（該当年度内に実施した学部一般選抜（前期・後期））：過去3年平均以上／毎年</p>	<p>・定住外国人の受入れ促進のために、英語重点型公募制についての広報を積極的に行う。 ・外国人留学生や障害のある学生に対し教務委員会、学生委員会と連携して授業や生活面でのサポートについて情報を提供する。【No.3】</p>	<p>・入試室参事・参与による高校訪問の際、英語重点型公募制入試について丁寧かつ詳細な説明を行った。</p> <p>・外国人留学生には、留学生ガイダンスを毎月行い授業や生活サポートについての情報提供を行った。障害のある学生には修学サポート室で生活サポートの配慮内容を確認し担当教員に配慮を行った。【No.3】</p> <p>〈数値目標〉 一般選抜（前期・後期）における志願倍率は4.9倍であった。過去3年平均は5.9倍。</p>	B	B	<p>学部の一般選抜の志願倍率、社会人学生数、留学生の受入人数などの数値目標が未達成となった。将来に渡って多様な学生を安定的に確保できるように、訴求力の高い広報を展開し、受入方を充実させたい。</p> <p><学部一般選抜入試結果></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>定員</th> <th>志願者</th> <th>志願倍率</th> <th>過去3年平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>文化政策</td> <td>161人</td> <td>680人</td> <td>4.2倍</td> <td>5.7倍</td> </tr> <tr> <td>デザイン</td> <td>85人</td> <td>532人</td> <td>6.3倍</td> <td>6.3倍</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>246人</td> <td>1,212人</td> <td>4.9倍</td> <td>5.9倍</td> </tr> </tbody> </table>	区分	定員	志願者	志願倍率	過去3年平均	文化政策	161人	680人	4.2倍	5.7倍	デザイン	85人	532人	6.3倍	6.3倍	計	246人	1,212人	4.9倍	5.9倍																								
区分	定員	志願者	志願倍率	過去3年平均																																														
文化政策	161人	680人	4.2倍	5.7倍																																														
デザイン	85人	532人	6.3倍	6.3倍																																														
計	246人	1,212人	4.9倍	5.9倍																																														
66	<p>・海外インターンシップの拡充等により、留学や研修の機会を増やすとともに、日本語学習支援や生活支援等の受入体制の充実により、外国人留学生を積極的に受け入れる。【No.66】</p> <p>〈数値目標〉 受入れ留学生数：40人／毎年 派遣留学生数：長期留学 22人／毎年 短期留学 50人／毎年（語学研修含む）</p>	<p>・語学研修（実地研修、オンライン研修）参加者への経済的支援を行う。 ・受入れ留学生の日本語能力を的確に把握し、必要な支援を行う。【No.66】</p>	<p>・語学研修助成を行った。 ・日本語アカデミックライティングの支援員による日本語能力の聞き取りを行い、レポートや論文の支援を実施した。また日本語パートナー（日本人学生）のマッチングサポートを実施した。【No.66】</p> <p>〈数値目標〉 受入れ留学生数：31人 派遣留学生数：長期留学37人 短期留学：59人</p>	A	A	<p><語学研修の状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数(人)</td> <td>23</td> <td>58</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>助成金給付額(千円)</td> <td>690</td> <td>1,400</td> <td>1,185</td> </tr> </tbody> </table> <p><留学の状況> (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受入留学生数</td> <td>33</td> <td>35</td> <td>37</td> <td>46</td> <td>37</td> <td>32</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>派遣留学生数</td> <td>14</td> <td>19</td> <td>33</td> <td>24</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>短期留学生数</td> <td>29</td> <td>32</td> <td>22</td> <td>52</td> <td>23</td> <td>58</td> <td>59</td> </tr> </tbody> </table> <p>○受入：水際対策の影響あり（R5. 4. 29対策終了） ○派遣：数値目標の大幅な達成（168%） ○短期：数値目標の達成（118%）</p> <p><R4主な取組> ○日本語アカデミック・ライティング支援<R4新規> 実施期間：11月～2月 計32時間実施 利用学生数：6人</p>	区分	R2	R3	R4	参加者数(人)	23	58	55	助成金給付額(千円)	690	1,400	1,185	区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	受入留学生数	33	35	37	46	37	32	31	派遣留学生数	14	19	33	24	5	0	37	短期留学生数	29	32	22	52	23	58	59
区分	R2	R3	R4																																															
参加者数(人)	23	58	55																																															
助成金給付額(千円)	690	1,400	1,185																																															
区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4																																											
受入留学生数	33	35	37	46	37	32	31																																											
派遣留学生数	14	19	33	24	5	0	37																																											
短期留学生数	29	32	22	52	23	58	59																																											

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和4事業年度）

評価に当たっての意見がある項目（7項目）

資料7

No.	中期計画	R4年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)
62	<p>・異なる言語や文化的背景を持つ人々、障害者や性的マイノリティなど、様々な人々がともに学ぶことのできる環境づくりに努める。【No.62】</p>	<p>・コロナ禍終息後には、外国人留学生と本学学生との交流イベントを再開する。 ・性的マイノリティへの配慮に関するガイドラインを定め、学内に周知する。【No.62】</p>	<p>・外国人留学生と本学学生との交流イベントを実施した。 ・性的マイノリティへの配慮について、他大学の事例を調査した上で、ガイドライン策定に向けた取組の方針を決定した。【No.62】</p>	B	B	<p>年度計画に掲げた、性的マイノリティへの配慮に関するガイドラインの策定に至らなかった。将来に渡って多様な学生を安定的に確保できるよう、訴求力の高い広報を展開し、受入方を充実させたい。</p> <p><ガイドラインの策定状況> ○R4はガイドライン策定まで至らなかった。</p> <p><外国人留学生と日本人学生との交流イベント> ○学友会主催納涼祭 参加人数：留学生9人参加 支援内容：浴衣体験、留学生と生協委員学生による型抜きイベント ○織物や染色の現場で工程を学ぶ「遠州産地バスツアー」 参加人数：交換留学生8人 内 容：浜松の産業紹介、デザイン学部匠領域学生との交流 ○留学生歓迎会の実施 参加人数：留学生23人と日本人学生12人、教職員18人の計53人</p>
31	<p>・現行のチューデントアシスタント（学部生）の運用を改善し、新たにティーチングアシスタント（大学院生）を導入する。【No.31】</p>	<p>・全学教務委員会においてティーチングアシスタント制度の素案を作成する。【No.31】</p>	<p>・全学教務委員会において、本学で実現可能なティーチングアシスタント制度について検討したが素案の作成には至らず、同規模の大学の事例を参考に再検討することとした。【No.31】</p>	B	B	<p>ティーチングアシスタント制度※の素案が未作成となり、年度計画を達成できなかった。将来的な制度の活用に向けて、整備を進められたい。</p> <p>※ ティーチングアシスタント制度： 教育的配慮の下、大学院学生に、学部学生等に対する助言や演習等の教育補助業務を行わせ、大学教育の充実と大学院学生のトレーニングの機会提供を図るとともに、業務に対する手当の支給により、大学院学生の処遇の改善の一助とすることを目的とした制度</p>

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和4事業年度）

評価に当たっての意見がある項目（7項目）

資料7

No.	中期計画	R4年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																									
41	<p>・地域の企業の魅力を学生に向けて発信し、理解促進を図る。【No.41】</p> <p>〈数値目標〉 大学主催の就職支援事業の参加率：45%以上／毎年 就職率：100%／毎年 県内就職率：過去3年平均以上／毎年</p>	<p>・企業説明会、業界研究セミナーにおいては積極的に地域企業を招聘し、学生にその魅力を伝える。【No.41】</p>	<p>・企業説明会、業界研究セミナーにおいて学生の志望度が高い地域企業を中心に招聘した。【No.41】</p> <p>〈数値目標〉 大学主催の就職支援事業の参加率：29.6% 就職率：96.3% 県内就職率：35.9%(過去3年平均38.4%)</p>	B	B	<p>就職率は例年並みであったものの、大学主催の就職支援事業の参加率、県内就職率の数値目標が達成できなかった。地域企業の魅力を伝える取組を継続するとともに、学生が希望する進路に就職できるよう、引き続き支援されたい。</p> <p><数値目標等の状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就職支援事業参加率</td> <td>49%</td> <td>33.5%</td> <td>28.6%</td> <td>29.6%</td> </tr> <tr> <td>就職率</td> <td>96.6%</td> <td>92.6%</td> <td>96.5%</td> <td>96.3%</td> </tr> <tr> <td>全国の就職率</td> <td>98.0%</td> <td>96.0%</td> <td>95.8%</td> <td>97.3%</td> </tr> <tr> <td>県内就職率</td> <td>36.7%</td> <td>39.4%</td> <td>39.1%</td> <td>35.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p><R4主な取組> ○3年生全員を対象としたガイダンスを年13回実施</p>	区分	R1	R2	R3	R4	就職支援事業参加率	49%	33.5%	28.6%	29.6%	就職率	96.6%	92.6%	96.5%	96.3%	全国の就職率	98.0%	96.0%	95.8%	97.3%	県内就職率	36.7%	39.4%	39.1%	35.9%
区分	R1	R2	R3	R4																											
就職支援事業参加率	49%	33.5%	28.6%	29.6%																											
就職率	96.6%	92.6%	96.5%	96.3%																											
全国の就職率	98.0%	96.0%	95.8%	97.3%																											
県内就職率	36.7%	39.4%	39.1%	35.9%																											
44	<p>・重点研究ビジョン「持続する社会のためのグローバルデザイン」のもとに、両学部を融合させた研究や他大学と連携した研究を推進する。【No.44】</p> <p>〈数値目標〉 論文数、研究作品数（機関リポジトリ登録数）：対前年増／毎年</p>	<p>・教員特別研究費について、両学部・研究科を融合させた研究や他大学と連携した研究に重点的な配分をする。【No.44】</p>	<p>・令和5年度教員特別研究の「重点研究」及び「文化・芸術研究センター研究」区分の審査において、両学部の融合を促進させる研究活動に対し重点的な配分を行った。（重点研究：1件、文化・芸術センター研究：3件）【No.44】</p> <p>〈数値目標〉 論文数、研究作品数（機関リポジトリ登録数）：52件（R3年度：70件）</p>	B	B	<p>論文や研究作品などの機関リポジトリ※数の減少傾向が続いている。研究成果の発信は、学生の獲得や受託事業の増につながる重要な取組であるため、全学的な対策が望まれる。</p> <p>※ 機関リポジトリ： 大学や研究機関の構成員である教員や研究者などが創造した研究論文等の知的生産物を、電子的形態で収集、保存蓄積し、インターネットを通じ公開する電子アーカイブシステム</p> <p><R5年度教員特別研究> ○重点研究：1件 ○文化・芸術センター研究：3件</p>																									

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和4事業年度）

評価に当たっての意見がある項目（7項目）

資料7

No.	中期計画	R4年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)								
83	<p>・適正なガバナンス確保のため、定期的な自己点検評価を継続実施し、法定の外部評価の結果とともに、業務改善に的確に反映する。【No.83】</p>	<p>・第2期中期計画中間年における自己評価結果を踏まえた対応策を年度計画に位置付け、改善を進める。 ・6年に1度の外部評価機関による審査を受審する。【No.83】</p>	<p>・第2期中期計画の自己評価結果を踏まえて年度計画を作成し、進捗管理しながら改善を進めた。 ・6年に1度の外部評価機関による審査を受審し、「大学評価基準を満たしている」との評価を受けた。評価結果を教育研究及び業務運営の改善計画に反映した。【No.83】</p>	A	A	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>6年に1度の外部認証評価機関による認証評価の受審の結果、「大学評価基準を満たしている」との評価を受けた。改善を要する点（4事項）、今後の進展が望まれる点（4事項）について、今後対応を行い、教育研究の質の向上を図りたい。</p> </div> <p><外部評価機関による審査（認証評価）> ○評価機関： 一般財団法人 大学教育質保証・評価センター ○実施時期：令和4年11月16日（水） ○実施方式：オンライン（zoom利用）</p> <p><認証評価結果> 静岡文化芸術大学は、大学教育質保証・評価センターが定める大学評価基準を満たしている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>指摘事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○優れた点</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>△改善を要する点</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>□今後の進展が望まれる点</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>○①地域と連携した実践的な教育活動の展開 ②フェアトレード大学 △①大学院の入学定員の未充足 ②ディプロマ・カリキュラムポリシーの一貫性の整理・検証及びカリキュラムの体系的な更なる明示化 ③授業科目における成績評価基準の明示化 ④シラバスの組織的な確認・点検 □①各科目に係る講義・演習の区分の明示化 ②SD研修に係る組織体制の明確化及び取組の更なる充実 ③内部質保証を担う組織体制の強化 ④全学レベルでのFDの更なる充実</p>	区分	指摘事項	○優れた点	2	△改善を要する点	4	□今後の進展が望まれる点	4
区分	指摘事項													
○優れた点	2													
△改善を要する点	4													
□今後の進展が望まれる点	4													

評価を変更した項目、評価に当たっての意見がある項目、課題とする項目（公立大学法人静岡文化芸術大学 令和4事業年度）

課題とする項目（1項目）

資料7

No.	中期計画	R4年度計画	自己評価の判断理由 (計画の実施状況等)	自己 評価	検証	特記事項 (意見・指摘)																				
91	<p>・ハラスメント防止指針に基づき、効果的な啓発指導や研修を行い、学生・教職員の人権意識の向上や、相談体制の充実強化を図り、本学におけるハラスメントの根絶を目指す。</p> <p>・ハラスメント事案が発生した場合には、迅速に被害者救済を行うとともに、修学・就労環境の改善等の措置を行う。【No.91】</p>	<p>・学生及び教職員がハラスメントについて共に学び、指針とすることができるハラスメント防止ガイドラインを策定する。</p> <p>・アンケートによる実態調査、研修やリーフレット等による意識啓発、相談窓口の整備等を引き続き実施する。</p> <p>・ハラスメント事案への迅速・厳正な対処を行う。</p> <p>・ハラスメント防止委員会において、施策の改善を進める。【No.91】</p>	<p>・他大学におけるハラスメント防止ガイドラインを調査し、本学のガイドライン案を検討した。</p> <p>・教職員を対象としたWebアンケートにより、ハラスメント被害やハラスメントの認知の状況等を調査した。</p> <p>・新規採用教職員対象にハラスメント防止研修を行った。</p> <p>・教職員を対象にハラスメント防止研修を行い、ハラスメントがもたらすリスクについて、再確認を行った。全員が受講した。</p> <p>・学生を対象にハラスメント被害防止動画による啓発を行った。</p> <p>・発生したハラスメント事案1件について、ハラスメント調査委員会を立ち上げ、迅速、厳正な処分を決定した。【No.91】</p>	B	B	<p>ハラスメント防止研修を全教職員が受講するなど、再発防止に取り組む中、懲戒処分に至るアカデミック・ハラスメント事案が発生した。信頼回復に向け、再度、全学を挙げてハラスメントの防止を徹底されたい。</p> <p><R4主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員対象Webアンケート回答率49.7% ○新規採用教職員対象ハラスメント防止研修 R4：参加者23人／対象者23人 R3：参加者17人／対象者17人 ○ハラスメントの防止に関する研修受講率 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象者数</td> <td>173人</td> <td>173人</td> <td>178人</td> <td>179人</td> </tr> <tr> <td>受講者数</td> <td>162人</td> <td>156人</td> <td>153人</td> <td>179人</td> </tr> <tr> <td>受講率</td> <td>93.6%</td> <td>90.2%</td> <td>86.0%</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p><R4ハラスメント事案発生件数></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1件（アカデミック・ハラスメント） 	区分	R1	R2	R3	R4	対象者数	173人	173人	178人	179人	受講者数	162人	156人	153人	179人	受講率	93.6%	90.2%	86.0%	100.0%
区分	R1	R2	R3	R4																						
対象者数	173人	173人	178人	179人																						
受講者数	162人	156人	153人	179人																						
受講率	93.6%	90.2%	86.0%	100.0%																						

検証後の集計結果（公立大学法人静岡文化芸術大学）

		評価対象 項目数	評価委員会検証					法人自己評価				
			SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要	SS 計画を大 幅に上回 って実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
教育 研 究 等	1 教育	43	0	0	39	4	0	0	1	39	3	0
	2 研究	9	0	0	8	1	0	0	0	8	1	0
	3 地域貢献	10	0	1	8	1	0	0	0	9	1	0
	4 グローバル化	5	0	0	5	0	0	0	0	5	0	0
	合 計	67	0	1 (1.5%)	60 (89.6%)	6 (8.9%)	0	0	1 (1.5%)	61 (91.0%)	5 (7.5%)	0
法人 経 営	1 業務運営の改善	10	0	0	9	1	0	0	2	8	0	0
	2 財務内容の改善	3	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0
	3 施設・設備の整備、活用	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
	合 計	15	0	0	14 (93.3%)	1 (6.7%)	0	0	2 (13.3%)	13 (86.7%)	0	0
自己 点 検	1 評価の充実	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
	2 情報公開等の充実	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0
	合 計	3	0	0	3 (100%)	0	0	0	0	3 (100%)	0	0
そ の 他	1 安全管理	5	0	0	5	0	0	0	0	5	0	0
	2 社会的責任	2	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0
	合 計	7	0	0	6 (85.7%)	1 (14.3%)	0	0	0	6 (85.7%)	1 (14.3%)	0
総 合 計		92	0	1 (1.1%)	83 (90.2%)	8 (8.7%)	0	0	3 (3.3%)	83 (90.2%)	6 (6.5%)	0